

岩屋中だより

令和5年9月1日 NO11

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

できない理由を考えるのではなく、できる方法を考える＝前向きな気持ち（positive な気持ちで）

2学期がスタート

いよいよ2学期が始まりました。8月30日に、前向きな気持ちが大切であること、「Change（変わる）」ことは新しい自分を見つける「Chance」というのは、学期末だけに限ることではなく、いつでもいえること。そして、あなたの笑顔が周囲を幸せにするということについて触れました。

今日は、2学期のスタートです。スタートにあたり、8月30日に伝えたことに加えて皆さんに伝えたいことを記します。

頑張った自分に対して「よく頑張ったね！ありがとう！」と自分で自分を褒めることができる2学期であってほしいと思います。そして、頑張った周囲の人に「よく頑張ったね！頑張るあなたに元気をもらったよ。ありがとう！」といえる2学期であってほしいとも思います。

そこで、「頑張る自分」であるために必要な要素を考えてみましょう。

目標をかかげ、その達成のために努力を継続することについては、1学期の始業式や入学式で述べたとおりです。頑張る自分とは、目標達成のために努力を継続する自分です。そこから網一步踏み込んで考えてみましょう。

努力する必要性を感じていながら、努力することができなかったという経験は誰しもあります。私もそのような反省ばかりしています。そのとき、「だって、……だから。それは、……だから」とできなかった理由を探している自分が常に私自身の中にあります。結果として、成長をしていない自分や成長しようとし

ない自分を成長しようとし、ない自分を認めるための理由探しをしている気がするのです。自分を成長させ、自分を一歩前に進めるためには、「できるようになるには、何を、どのような方法で、どのようにすればよいか」を考えることだと重要だと最近自分自信を振り返って思うようになりました。「できない理由を述べる自分」と、「できるようになるために模索する自分」では、明らかに後者の方が成長することは明らかです。このことは、子どもであろうと、大人であろうと、今であろうと、昔であろうといえることだと私は考えます。つまり、「物事に対して向かう時、どのような気持ちで物事に向かうか」といって、後ろ向きではなく、前向きに」が成長の分岐点だと考えます。Negative（ネガティブ）ではなくPositive（ポジティブ）であれば、成長させるための何を探し当てることができるのかもしれませんが。8月30日の通信でも触れた、「プラス思考」とも共通しています。

さて、このこと以外にも、皆さんに頑張ってもらいたいこと、伝えたいことがありますので、2学期のスタートに向けて、整理をします。

- 自分を自分で褒めることができる2学期にしよう。
- 努力を継続する自分にしよう。
- できなかった理由を咲かすのではなく、できるようになるには、何を、どのような方法で、どのようにすればよいかを考よう。
- Positiveな思考、プラス思考を大切にしよう。
- 互いに「ありがとう」と感謝しあうことができる関係をつくり、支えあう集団づくりを続けていこう。
- 岩屋中学校の強みはどこかを考え伸ばそう。

たくさん記しました。しかし、基本的には、1学期に話したことがベースです。

新しく着任されたALTの先生です。

1学期の終業式の日、ウーリカ先生とお別れをしましたが、9月から、新しいALTの先生が着任しましたので、紹介いたします。

Arieta Koreti Tagiilima Taito 先生です
(アリエッタ・コレティ・タギーリマ タイトー)
アリエッタ先生は、ニュージーランドご出身の先生です。以下、アリエッタ先生の自己紹介文を記載します。

Hello! Kia ora! My name is Arieta and I'm the new ALT. I came from New Zealand, but my family is from a small country in the Pacific called Samoa. I am excited to work here! Let's enjoy English together.

こんにちは、みなさん。私の名前は、アリエッタです。新しいALTです。私は、ニュージーランドから来ました。しかし、私の家族は、太平洋のサモアと呼ばれる小さな国にいます。私は、ここで働けることにワクワクしています。一緒に英語を楽しみましょう。

アリエッタ先生の直筆のイラストです。上手ですね



中学生議会の様子

8月16日、17日の2日間、長崎市役所にて、長崎市中学生議会が行われました。本校からは、生徒会役員から1名参加し、以下の2点について、市内各中学校の代表生徒同士話し合いを行いました。

「いじめゼロ宣言の実現に向けて全中学校で共通実践すること」

「みんなが住み続けたい長崎市にするためにはどうすればよいか。」

市内の全中学校が東西南北の4つの委員会に分かれ、話し合って案を作成し、全体で討議するという、実際の政治で行われている「委員会の審議」「本会議」を体験しながら真剣な議事が行われました。長崎市内の中学校で共通実践しようということについて話し合われましたので、岩屋中学校においても、その実践が生徒会活動として実行に移されていくものと思います。その中学生議会の様子を紹介いたします。

